

短期大学における子育て支援の取り組み（2） — SHIGATAN 乳幼児ふれあい・保育体験事業を通して—

浜崎由紀*, 松井典子
滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Efforts of the Child Care Support in the Junior College (2)
— Though SHIGATAN Infants Contact, Childcare Experience—
Yuki HAMASAKI, Noriko MATSUI
Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

抄録：本報告は、2018年に「滋賀短期大学紀要」において報告した「短期大学における子育て支援の取り組み—SHIGATAN 乳幼児ふれあい・保育体験事業を通して—」の第2報である。第1報では、滋賀短期大学乳幼児総合研究所における子育て支援の取り組み「子育て支援講座&保育体験」を通して、短期大学学生の学びを明らかにした。本報告では、「抱っことおんぶの講座と乳幼児親子とのふれあい体験」において、母親の気づきに焦点をあて考察した。母親は、抱っこ紐の種類や結び方、子どもとの接し方について新しい知見が得られたことが明らかとなった。また、日常的な抱っこによる身体的な負担は大きく、疲労を訴えていた。抱っこやおんぶを通して、子育ての見方・考え方を改めて考える機会となり、このような講座に参加することで、子育てに対する負担感の軽減につながることを考察された。

キーワード：子育て、子育て支援、抱っこ、おんぶ、滋賀県

1. はじめに

滋賀短期大学乳幼児総合研究所（以下、「研究所」という）は、乳幼児保育及び教育に関する学術研究を行い、地域における乳幼児保育及び本学の教育の向上に資することを目的としている。本研究所は、その目的を達成するために、現在は、特に子育て支援事業及び子育て相談に力を入れている。子育て支援事業内容は、地域の在宅育児家庭の子育て支援、幼児教育保育学科の学生の実践教育、乳幼児・子育て支援の研究等である。¹⁾

本報告は、2018年度に実施した「SHIGATAN 乳幼児ふれあい・保育体験等実施事業」のうち9月11日および13日に実施した「抱っことおんぶの講座と乳幼児親子とのふれあい体験」²⁾についてで

* E-mail: y-hamasaki@sumire.ac.jp, n-matsui@sumire.ac.jp

ある。本報告では、参加した母親に講座に関するアンケートを取り、アンケートの回答・記述から「抱っこ」や「おんぶ」（以下、鍵括弧を外して記す）について母親の気づきに焦点をあて考察した。

2. 実施事業の概要

2.1 「抱っこ・おんぶの講座」について

子どもの心身の発達、愛着形成に欠かせないといわれる抱っこやおんぶの仕方が、子育てをする親たちの間で、近年大きく変化してきたといわれる。その影響について危惧する声が聞かれ、Facebook上でも問題提起されている。³⁾

現在、昔ながらの抱っこやおんぶの方法が伝承されなくなり、子育て中でありながら、子育ての基本である抱っこ、おんぶについて知らない親が増えてきている。抱っこ、おんぶの方法を知らないために子どもの発達に悪影響を及ぼすことがあると専門家からも指摘されている。⁴⁾ そのため、研究所においても、保育者を目指す学生や子育て中の親に適切な抱っこやおんぶの方法について伝え、子育てについて考えるきっかけとなるよう、これまで「抱っこ・おんぶの講座」を実践されてきた「子育ての文化研究所」の代表、朱まり子氏を外部講師として招いた。

本講座は、2日間にわたり開催され、申込制（各回15人定員）とした。各回は、同様の内容となるが、2回参加することも可能とした。

2.2 実施講座内容

本講座は、講師の講話と実践を交えた演習形式で、円座になり適宜受講者からの質問を受け付け、その都度返答する形で進めた。子どもと一緒に体験できるように一時預かりの保育はせず、親子一緒に参加とした。講座の冒頭では、講師から子育て世代が抱える現代社会の問題点やその背景について述べられた。講座の前半は、講師と受講者、受講者同士が日ごろの子育てや抱っこやおんぶの方法について質問や対話を行いながら進められた。ある一人の参加者からは、「子どもがなかなか寝つかずに困っている。どうして寝てくれないのか。」という質問があった。講師は、「寝かせなくてはと親が焦れば焦るほどそれが子どもに伝わり、かえって寝なくなる。眠たくなったらそのうち寝るだろうくらいの気持ちになるといい。」等の助言をされていた。また、自分でしっかりと歩けるようになり、活動が活発になってきた子どもについて「歩けるようになると、いつまでも抱っこひもで抱っこする必要はない」との助言もされた。

後半は、対話を踏まえ、実際に抱っこやおんぶの際に使用する抱っこ紐や兵児帯を紹介しながら、赤ちゃんと母親にとって心地よい抱っこ、おんぶの方法を探っていった。その後、受講者が実践し、今までの抱っこのやり方と比較し、赤ちゃん和母親にとって心地よい抱っこ、おんぶの仕方という視点で実践活動を行った。参加者がされていた抱っこの高さは、参加者の腰より低い位置に子どものおしりがあり、抱く人の腰や肩に負担がかかる位置であるとの指摘があった。実際に抱っこひもの肩ひ

もを調節し、子どもを抱く人の胸の前に来るようにし、子どものおしりが抱く人の臍の高さに来るようにすると、子どもも親も楽になるとの助言があった。さらに、赤ちゃんの視点になって考えることの大切さを伝えられていた。

3. アンケート調査について

3.1 調査方法

質問紙によるアンケート調査を実施した(表1)。

調査対象 「抱っこ・おんぶの講座」の受講者(学生を除く)

調査実施日程と回答者数 2018年9月11日(火)10時から12時 3名

2018年9月13日(木)10時から12時 6名

実施会場 滋賀短期大学 子育て支援教育プレイルーム(211教室)

調査方法 「抱っこ・おんぶの講座」終了後に質問紙を配付し、回答してもらった。設問に対し、回答は、選択記述と自由記述で実施した。回答に際し、記名を求めた。

3.2 倫理的配慮

本研究に関して、参加者へ書面にて協力依頼を行い、同意を確認した。さらに、個人情報の配慮については、個人が特定されないように記号による匿名化を行った。得られた情報は記号化し、分析はデータのみを使用した。なお、本研究は滋賀短期大学の研究倫理委員会の審査で承認を得た。

短期大学における子育て支援の取り組み (2)

(表1)

SHIGATAN (滋賀短期大学) 乳幼児ふれあい・保育体験事業
抱っこ・おんぶの講座 (9月11日・13日) 一般用

本日は、「抱っこ・おんぶ」の講座にご参加いただきまして、有難うございました。
今後の企画・運営に役立てたいと存じますので、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。
ご協力よろしくお願いたします。

1. 本日の講座内容はいかがでしたでしょうか。ご意見・ご感想をお聞かせください。
(1) 大変よかった (2) よかった (3) どちらともいえない (4) よくなかった

ご意見・ご感想ご興味をもたれた内容があればお聞かせください。

2. 本講座に参加されたきっかけ (理由) をお聞かせください。
()

3. 日常生活において抱っこ・おんぶで困っていることがあればお聞かせください。
()

4. 本日の講座をどのようにしてお知りになりましたか。
()

- (1) ちらし (2) 滋賀短期大学のホームページ (3) すみれが一でん
(4) 友人・知人からの紹介 (5) 主催者からの紹介
(6) その他 ()

5. 今後、開催してほしい講座内容についてお聞かせください。

- ()

6. 参加者ご自身について、差しさわりのない範囲でお答えください。

(ア) 性別 (1) 男性 (2) 女性

(イ) 年齢

- (1) 10代 (2) 20代 (3) 30代 (4) 40代
(5) 50代 (6) 60代 (7) 70代以上

(ウ) 居住地

- (1) 大津市 (2) 草津市 (3) 守山市 (4) 野洲市
(5) 近江八幡市 (6) 長浜市 (7) 京都市

その他 ()

(エ) 講座 (子育て等に関する) への参加度

- (1) 初めて (2) 年間1~3回 (3) 年間4~6回
(4) 年間7回以上

7. 今後の講座をご案内させていただきたく存じます。差しさわりのない範囲でご記入ください。

○ご氏名 ()

○ご住所 (〒 -)

○ご連絡先 Tel ()

○メールアドレス ()

ご記入いただいた個人情報は、第三者に個人データを提供することはいたしません。
アンケートのご協力、ありがとうございました。

滋賀短期大学 乳幼児総合研究所

4. アンケートの調査結果と考察

4.1 アンケート調査結果

以下に参加者の「抱っこ・おんぶ」に関する考えや講座内容の感想等を明らかにする。今回、参加者が少なかったことや9月11日、13日の2日とも同じ講座内容だったため、アンケート結果は分けずに集計した。自由記述については質問1から3の回答を列挙した。

【選択記述】

1. 本日の講座内容

大変良かった 9名

4. 本日の講義を知った媒体

友人・知人からの紹介 4名

主催者からの紹介 3名

ちらし 1名

すみれがーでん 1名

6. 属性

女性 9名

年齢 20代 4名

30代 3名

40代 2名

居住地 大津市 2名

京都市 2名

守山市 1名

栗東市 1名

野洲市 1名

近江八幡市 1名

愛荘町 1名

講座（子育て等に関する）への参加度

初めて 6名

年間1～3回 2回

年間7回以上 1回

【自由記述】

1. ご意見・ご感想ご興味を持たれた内容があればお聞かせください。

①動き出したら、抱っこしなくてもいいというのがすごい衝撃でした。

- ②初めて知ったこと、なるほどと思ったことがたくさんあってすごく学びになった。もっと早く知りたかった。
- ③今している抱っこが間違っていたことを知って衝撃でした。何にしても子どもの立場になってやってみる。考えることが大切だと改めて感じた。
- ④下の子に対して申し訳ないきもちばかりだったので、「環境が整った中で生まれてきた幸せ」という言葉がとてもしみしました。確かにそうです。違う視点を与えてくださり、今の状況をとらえなおせました。
- ⑤子育てについて毎日の子どもとの接し方に自信が持てるような「安心」できる内容でした。たくさんママたちに知ってもらいたいと思いました。
- ⑥抱っこひもの種類
- ⑦へこおびが興味あります。今の時代の人たちに伝えてほしい。
- ⑧兵児帯を使ったおんぶ、実際に見せていただき貴重な経験でした。

2. 本講座に参加されたきっかけ（理由）をお聞かせください。

- ①誘われた。
- ②スタッフからの紹介
- ③先生に紹介していただいた。
- ④友人に教えてもらい知った。
- ⑤まだ抱っこをしてあげたいので何か学ぶことがあるかなあと思って。
- ⑥抱っこおんぶの大切さを学びなおしたかった。
- ⑦幼稚園から案内をもらい、ちょうど第2子について考えることがあったので参加しました。
- ⑧友人に教えてもらって。ベビーサインの教室を最近始めて赤ちゃんや育児を頑張るママたちに会う機会が増えたので育児について勉強したいと思ったから。
- ⑨スリングや兵児帯が自己流だったので教えてもらいたかった。

3. 日常生活において抱っこ・おんぶで困っていることがあればお聞かせください。

- ①おんぶを嫌がるのですが、縛り付けは嫌だと思うので、無理にするのはやめようと思います。
- ②腰の痛み（荷物が増える、体重増加で負担がどんどん増えています）
- ③（今は子どもが歩いています）肩こり、腰痛がつかかった。
- ④腰が痛くなる。
- ⑤家事をしているときに限って抱っこを求める。
- ⑥上の子重視で、下の子を抱っこできない、もしくは抱きっぱなし
- ⑦外出先でスリングで寝てしまった時の仕方に困っていたけど、今日聞いて良かった。

4.2 考察

アンケート結果から本講座の受講者は、実施会場から近郊の滋賀県大津市や近隣市、京都市居住で、20代から40代の女性であった。参加者への聞き取りより、子どもは第1子の参加者もいれば、第2子の参加者もいた。初めての子育てに限らず、二人目の子育てであっても子育てに対する悩みは、その時々においてつきものであることが自由記述から窺えた。

講座の内容は、受講者全員が「大変良かった」と回答し、好評であった。本講座の受講のきっかけは、知人からの紹介や主催者からの紹介が多く、受講者1名は、研究所・地域子育て支援事業の「すみれが一でん」の登録者であった。知人や主催者等、口コミでの参加が多いことから、普段の「すみれが一でん」の活動での広報の必要性が感じられた。

子育て支援講座への参加度については、「初めて」と回答した受講者が6名と受講者総数の半数以上で、1名は、年間7回以上参加しているように子育て支援について関心度が高い受講者もいた。アンケート回収が少ないものの、「初めて」と回答した受講者が割合的に多く、講座内容についても満足していたため、継続的な講座開催の必要性を感じた。

次に、自由記述より、母親の講座での気づきについて述べる。質問1の自由記述による講座への意見や感想等を求めた回答は、①、③は、講座を受けることによってこれまで思っていた抱っこに対する認識が違っていったことに気づき、衝撃を受けていた。基本的な抱っこの仕方や抱っこに対する考え方は、子育て中の親でも初めて聞く内容であることが窺える。また、②では、この講座が初めて知ったこと、なるほどと思ったことが学びになったと答えている。「早く知りたかった」とあるように子育て中の親にとっては、講座内容は必要な情報であると思われる。⑥、⑦、⑧では、抱っこ紐の種類や結び方にも興味があると回答があり、抱っこ紐や兵児帯の結び方の実践では、受講者同士でお互いの抱っこ・おんぶについて意見交換する場も見受けられた。受講者同士の学びあいは、子育ての情報交換以外にも交流の機会となる。④、⑤では、抱っこ・おんぶから子育て全般についての気づきも見られた。「それぞれの場面や状況に合わせた抱っこ」、「おんぶの方法」、「子どもとのかかわり方について新しい知見が得られた」、「子育てについて毎日の子どもとの接し方に自信が持てるような『安心』できる内容」であったと回答があったように講師の言葉（メッセージ）に関する感想や講座内容に満足した記述がみられた。これらは子育てに対する負担感の軽減につながると考えられる。

質問2の本講座を受講した動機についての質問には、スタッフや友人、幼稚園や大学教員からの紹介で参加した人の割合が多かったが、講座のタイトルにもある「抱っこ・おんぶ」の意義、抱っこ・おんぶの方法、育児に対して関心がある積極的な回答も記されていた。このことから、啓発をしていきたいと考える講座は、主催者側（子育て支援者）の積極的な広報活動の必要があることが感じられた。

質問3「日常生活において抱っこ・おんぶで困っていることについて」の回答結果は、母親の身体的な疲労を訴えている回答が最も多く、中には第1子と第2子のかかわり方や日々の生活の中での抱

っこ・おんぶに関する疑問等を記述する回答があった。他方、「困っていたが講座を受けたことによって、抱っこを無理にするのはやめようと思った」という抱っこについて肯定的な気づきもみられた。講座を受けることによってこれまでの身体的な負担の軽減にもつながると考えられる。

5. まとめ

社会情勢の変化にともない、日本社会の家族のあり方も変容し、核家族化が都市部だけではなく、ますます日本全体に拡がりつつある現状である。以前は親子3代で一緒に暮らす割合も多く、親から子へと子育てに関することも含め、生きていく知恵が自然と受け継がれてきた。しかし、現在はこの繋がりが遮断されており、抱っこやおんぶの伝承も途絶えつつある。このような現状のなか、本講座を受講した参加者は、抱っこやおんぶを通した気づきがさまざま見られた。講師からの助言、参加者同士の意見交換、交流等、これらの積み重ねが、子育ての負担感を軽減していくように思われる。

今回の参加者は、講座への参加が初めてという方が多く、抱っこやおんぶについて初めて聞く内容で満足していた。誰かの紹介によって参加に至った方も多かった。今回、申し込み定員よりも少なかったが、本講座内容に加え、子育てのさまざまな疑問にも答えていけるよう継続して開催していくことに意味があると考えている。子育て中の親からの聞き取りを重ねながら、往還的に抱っこやおんぶについて届けていくことが大切であろう。今後もこのような講座を積極的かつ継続的に開催していきたい。

文献

- 1) 研究所の主な活動は、未就園児の参加親子、研究所職員と学生、ボランティアの協働で行っている。活動名は設立当初より「すみれがーでん」と称している。「すみれがーでん」は、毎年度ごとに会員登録をした地域の未就園児親子約 50 組が、月に 2 回（毎週木曜日 10:00 am. ～正午頃）、研究所のスタッフ、学生が考えたプログラムに参加する取り組みである。保育者を目指す幼児教育保育の学生にとって地域の未就園児親子と触れ合う機会は、保育実習の機会となると同時に、現在の子育て家庭の現状を知る手掛かりとなる。その他、すみれがーでん以外の隔週と毎週金曜日（10:00a.m～3:00p.m.）は「ぼっぼがーでん」と称するノンプログラムの活動で、親子が集う場として提供している。2020 年度はコロナ禍により「すみれがーでん」、「ぼっぼがーでん」の活動を休止している。
- 2) この事業は、滋賀県（滋賀県健康医療 福祉部 子ども・青少年局 家庭福祉・青少年係）が「ライフデザイン講座」の県内大学等へ普及を促進するため 2017 度に構築した大学向けライフプランニングや幼児ふれあい体験のプログラムをはじめとするライフデザインセミナーを実施する「学生向けフューチャマップ創造支援事業費」の補助金（学生向けライフデザイン講座等開催支援事業）の一部を受けて実施した。事業目的は、親や乳幼児とのふれあい体験・保育体験を通して、学生が子育てを身近に感じ、子育て家庭について興味を持つ機会を提供することである。また、将来、保育職に就こうとする学生が子育て支援について学ぶことを目的としている。「おんぶと抱っこの講座と乳幼児親子とのふれあい体験」は、実施日が本学の学生の教育実習期間と重なったた

め、参加者が少なかった。そのため、本来予定していた「乳幼児親子とのふれあい体験」と学生向けの「おんぶと抱っこの講座」については、第一報で報告した「子育て支援講座&保育体験」において実施した。

- 3) 近年の抱っこ、おんぶについて危惧した子育て支援者 2 名（迫きよみ, 松田妙子）・ベビーヨガ創始者（高橋由紀）・当時、東大大学院博士課程院生であった抱っこ紐製造販売（園田正世），臨床心理士（武田信子）の 5 名は、2014 年から Facebook 上で「だっこおんぶを語る会」を立ち上げ、議論をベースとして、地域の親子の観察なども踏まえながら、情報を収集、分析、問題提起をしてきている。

<https://www.facebook.com/groups/1540569352830891/permalink/2681287562092392/>

アクセス 2020 年 11 月 9 日

- 4) 武田信子 2019.4.16 17:51（2017 年の FB ノートを加筆修正した note バージョン）

<https://note.com/nobukot/n/nf8ffae94e4f2> アクセス 2020 年 11 月 9 日